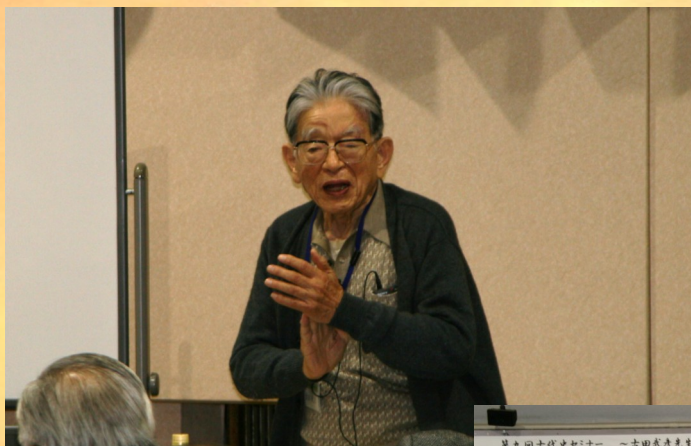


八王子学園都市大学いちょう塾への提供講座

第十回古代史セミナー ～古田武彦先生を囲んで～

日本古代史 新考 自由自在(その6)

- ◆開催日:2013年11月9日(土)～10日(日) 1泊2日
 - ◆場 所:八王子セミナーハウス(東京都八王子市下柚木1987-1)
 - ◆主 催:公益財団法人 大学セミナーハウス
-



(今年のセミナー風景)

日本古代史 新考 自由自在(その6)

一

この十一月、この八王子で皆様にお会いできるならば、わたしにとって天与の幸せと言う他はない。

すでに一昨年九月、「畢生の書」として『俾弥呼』を公刊した。今年の秋には『研究自伝』（同じく、ミネルヴァ書房）が上梓されよう。いつ、何時、この生を終えても、悔いところは全くないのである。

けれども、余命ありとすれば、運命の神の望み賜うところ、今なお残されているのであろうか。

二

もちろん、課題は多い。上の両書を書き終えた今、日本の歴史の古代から現代に至る「疑問」は消滅したか。とんでもない。逆だ。これまでの「未知のテーマ」が続出し、新たな出発点に立った。『研究自伝』に明記した通りである。

三

しかしそれは、日本だけの歴史ではない。中国やアジア、また西欧などの「公的な歴史」は、すべて「現存の権力」の正当性を証明するために「公定」されてきた。その「わく」という文脈の中で「国民の歴史」なるものを“設定”してきた。

各宗教の各宗派の「教義」がその宗派を正当化するために作られているのと同じく、歴代の「知的ロボット」を量産してきたのだ。国境紛争も、相次ぐ国家間の「戦争」も、そこから生じた。その意味では「国家はアヘン」だったのである。

四

もちろん、逆の側面がある。宗教や国家は、人類の生み出した、すばらしい「被造物」だ。そのおかげで、人類の地球における一大飛躍が遂げられてきた。それは確かだ。

しかし、反面、その「害毒」にもまた、人間はようやく気付きはじめた。たとえば、原水爆、たとえば原発など、数十万年もの、「宗教」や「国家」の発生や終末を、はるかに越える、地球に対する「一大害毒」を防止できぬ、という「限界」が、疑うべくもなく明らかになってきたのである。釈迦も、イエスも、マホメットも、孔子やマルクスやケインズ等も、いまだこれらの「一大害毒」の存在を知らぬ「幸せな時代」に生き、そして去って行った人々なのであった。

五

わたしは彼等を生んだ「宗教」や「思想」を尊敬する。そして何よりもわたし自身、日本の国家に対する、最深の愛国者であることを誇りとする。そのために、この生涯を賭けてきたのだ。だから知る。宗教や思想や国家のための新しい「時」の到来が近い。その前夜、その曙光の中にわたしたちはいるのである。それが今だ。——では。

(二〇一三年五月十二日記)

(古田 武彦)

【古田武彦先生 略歴】

- 1926年 福島県に生まれ、広島県で育つ
1945年 旧制広島高校を経て東北大学に入学
村岡典嗣に師事
1948年 東北大学法文学部日本思想史科卒業
長野県松本深志高等学校教諭
1984年 昭和薬科大学教授
1996年 同上定年退職後、京都府に在住



古田武彦先生
(歴史学者・元昭和薬科大学教授)

【古田武彦先生 著書・DVD】

- | | | |
|-----------|-----------------------------------|----------------------|
| 1971年 | 『「邪馬台国」はなかった』 | 朝日新聞社 |
| 1973年 | 『失われた九州王朝』 | 朝日新聞社 |
| 1975年 | 『盗まれた神話』 | 朝日新聞社 |
| 1979年 | 『ここに古代王朝ありき』 | 朝日新聞社 |
| 1984年～85年 | 『古代は輝いていた』 全3巻 | 朝日新聞社 |
| 1985年 | 『古代史を疑う』 | 駈々堂 |
| 1987年 | 『よみがえる卑弥呼』 | 駈々堂 |
| 1988年 | 『古代は沈黙せず』 | 駈々堂 |
| 1989年 | 『吉野ヶ里の秘密』 | 光文社 |
| 1990年 | 『真実の東北王朝』 | 駈々堂 |
| | 『「君が代」は九州王朝の讃歌』 | 新泉社 |
| 1991年 | 『日本古代新史』 | 新泉社 |
| | 『九州王朝の歴史学』 | 駈々堂 |
| 1994年 | 『人麿の運命』 | 原書房 |
| 1996年 | 『海の古代史』 | 原書房 |
| 1998年 | 『古代史の未来』 | 明石書店 |
| 2001年 | 『古代史の十字路－万葉批判』 | 東洋書林 |
| | 『壬申大乱』 | 東洋書林 |
| 2002年 | 『古田武彦著作集親鸞・思想史研究編』 全3巻 | 明石書店 |
| 2006年～09年 | 『なかった 真実の歴史学』(創刊号～第六号) | ミネルヴァ書房 |
| 2010年 | 『「邪馬台国」はなかった－解説された倭人伝の謎』(復刊) | ミネルヴァ書房 |
| | 『失われた九州王朝－天皇家以前の古代史』(復刊) | ミネルヴァ書房 |
| | 『盗まれた神話－記・紀の秘密』(復刊) | ミネルヴァ書房 |
| | 『邪馬壹国の論理－古代に真実を求めて』(復刊) | ミネルヴァ書房 |
| | 『ここに古代王朝ありき－邪馬一國の考古学』(復刊) | ミネルヴァ書房 |
| | 『倭人伝を徹底して読む』(復刊) | ミネルヴァ書房 |
| | 『701 人麻呂の歌に隠された九州王朝』 《DVD》 | (株)アンジュ・ボーテ ホールディングス |
| 2011年 | 『倭弥呼』 | ミネルヴァ書房 |
| | 『よみがえる卑弥呼－日本国はいつ始まったか』(復刊) | ミネルヴァ書房 |
| | 『古代史を疑う』(復刊) | ミネルヴァ書房 |
| 2012年 | 『古代は沈黙せず』(復刊) | ミネルヴァ書房 |
| | 『真実の東北王朝』(復刊) | ミネルヴァ書房 |
| | 『人麿の運命』(復刊) | ミネルヴァ書房 |
| | 『古代史の十字路－万葉批判』(復刊) | ミネルヴァ書房 |
| | 『壬申大乱』(復刊) | ミネルヴァ書房 |
| | 『多元的古代の成立』(上)(下) | ミネルヴァ書房 |
| 2013年 | 『倭弥呼の真実』 | ミネルヴァ書房 |
| | 『九州王朝の歴史学』(復刊) | ミネルヴァ書房 |
| | 『史料批判のまなざし』 | ミネルヴァ書房 |
| | 『現代を読み解く歴史観』 | ミネルヴァ書房 |
| | 『失われた日本』(復刊予定) | ミネルヴァ書房 |

他多数

【スケジュール】

第1日：11月9日（土）

11:30 ～ 受付
12:00 ～ 13:00 昼食
13:15 ～ 13:30 開会
13:30 ～ 15:30 講演と質疑応答
15:30 ～ 16:00 記念撮影・コーヒープレイク
16:00 ～ 17:45 講演と質疑応答
18:00 ～ 19:00 夕食
19:30 ～ 20:30 懇親会「古田武彦先生を囲んで」

第2日：11月10日（日）

8:00 ～ 9:30 朝食・チェックアウト
10:00 ～ 11:30 参加者からの質問・意見交換
12:00 ～ 13:00 昼食
13:30 ～ 15:30 質疑応答と解説
15:30 閉会

【実行委員】(コーディネーター)

荻上 紘一 大妻女子大学学長、公益財団法人大学セミナーハウス理事、東京都立大学元総長
(数学者) ☆古田先生の著作をほとんど読破し、「弟子」と自認している。

【募集要項】

- 募集人員：60名(先着順。ただし、宿泊される方を優先させていただきます。)
参加費：21,000円(税・宿泊・食事代・資料代を含む)、学生10,500円
申込方法：申込書に必要事項をご記入の上、下記宛に郵送(FAX)ください。
ホームページ掲載の申込みフォームからも、お申込みいただけます。
折り返し、参加決定通知及び当日のご案内などをお送り致します。
1週間以内に連絡がない場合は、お手数ですが、お電話でご確認ください。
申込締切：2013年11月1日(金)(定員になり次第、締め切ります。)
その他：当ハウスは一般の宿泊施設としてもご利用頂いております。
セミナーの前日または終了後の宿泊を希望される方は前もってご連絡ください。

【交通案内】

①羽田→京王線北野駅下車

◆羽田→浜松町(東京モルール25分470円)→新宿(JR山手線25分190円)→北野(京王線特急40分330円)

◆羽田→品川(京急空港線25分400円)

→新宿(JR山手線外回り20分190円)→北野(京王線特急40分330円)

※北野駅からバス「野猿峠」下車(10分170円)、徒歩5分

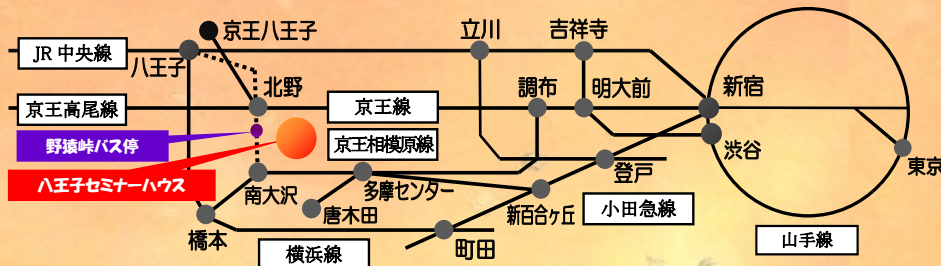
②東京駅→JR八王子駅下車(JR中央線特別快速50分780円)

③新横浜→JR八王子駅下車(JR横浜線快速40分620円)

※八王子駅南口からバス「野猿峠」下車(20分200円)、徒歩5分

④車ご利用の場合

中央高速道八王子I.C.より、八王子バイパスまたは、国道16号線で京王線北野駅方面へ8km、打越信号を経由し野猿街道へ、野猿峠信号を右折、約300m。



【お申込み・お問合せ】公益財団法人 大学セミナーハウス セミナー・留学生グループ



〒192-0372 東京都八王子市下柚木1987-1
TEL：042-676-8532/FAX：042-676-1220
E-mail：seminar-g@seminarhouse.or.jp
URL：http://www.seminarhouse.or.jp

